

2011年(平成23)12月

カルメル
靈性センターニュース



2011年12月

271号

目次

特集

教皇ベネディクト十六世の

257 回目の一般謁見演説 (3) ・ 1

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

年間購読(郵送)のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

特 集

教皇ベネディクト十六世の 257 回目の一般謁見演説（3）

2011年 2月 2日（水）午前 10時 30分から、パウロ六世ホールで、教皇ベネディクト十六世の 257 回目の一般謁見が行われました。この謁見の中で、教皇は、「教会博士」に関する新しい連続講話を開始し、その第 1 回として、「アビラの聖テレサ」について解説しました。以下はその全訳です（原文イタリア語）。

※ 霊性センターニュース 10月号～12月号に連載しています。

（前号からの続き）

聖テレサのもっとも有名な神秘的著作は、1577年、彼女が円熟した時期に書かれた、『*霊魂の城*』（*Las moradas o Castillo interior*）です。本書は自らの霊的生活の歩みの回顧であるとともに、聖霊の働きのもとに完成と聖性に向かうキリスト教的生活の発展の可能性の集大成でもあります。テレサは、人間の内面の比喩として、7つの住まいをもつ城の構造を述べます。同時に彼女は、蝶として生まれ変わる蚕というたとえを用います。それは、自然から超自然への移行を示すためです。

聖女は聖書、とりわけ雅歌から靈感を受けて、最終的に「花嫁と花婿」というたとえを用います。このたとえにより、第7の住まいにおいて、キリスト教的生活の頂点を4つの観点から述べるのが可能となります。すなわち、三位一体、キリスト、人間、そして教会です。テレサは1573年から1582年の間に書かれた『*創立史*』（*Libro de las Fundaciones*）で、改革カルメル会修道院の創立者としての活動を取り上げます。本書の中でテレサは初期の修道女のグループの生活について語ります。自叙伝と同じように、記述の目的は、新しい修道院を設立する活動の中で何よりも神が働かれたことを示すことです。

テレサの深く複雑な霊性を短いことばでまとめるのは困難です。いくつかの本質的な点を述べたいと思います。第一はこれです。聖テレサは、福音的な徳があらゆるキリスト教的生活と人間生活の基盤であることを示します。とくに富からの離脱、あるいは福音的な清貧です。これはわたしたち皆にかかわります。また、互いに愛し合うことです。これは共同生活と社会生活に不可欠な要素です。へりくだりとは、

真理を愛することです。決断は、キリスト教的勇気から生まれます。テレサは、神への希望は、生ける水への渇きだと述べます。人間的徳も忘れてはなりません。すなわち、柔和、誠実、謙遜、親切、快活、教養です。第二はこれです。聖テレサは、聖書の偉大な人物に深く親しむとともに、神のことばにしっかり耳を傾けるよう指示します。聖女が親しみを感じたのは、何よりも雅歌の花嫁と、使徒パウロであり、また、ご受難のキリストと、聖体のイエスです。

聖テレサは祈りが根本的に重要であることを強調します。テレサはいいます。「祈りとは、わたしたちを愛してくださっていると分かっているかたと幾度も二人きりで対話をし、友情を深めること」（『自叙伝』：Libro de la vida 8, 5〔高橋テレサ訳、上、120頁〕）です。聖テレサの思想は聖トマス・アクィナス（Thomas Aquinas 1224/1225-1274年）による神への愛の定義と一致します。神への愛とは「神に対する人間の何らかの友愛（amicitia quaedam hominis ad Deum）」です。神がまず人間にご自身の友愛を与えてくださいます。まず働きかけてくださるのは神なのです（『神学大全』：Summa theologiae II-II, q. 23, a. 1〔『神学大全16』稲垣良典訳、創文社、1987年、121頁〕参照）。

祈りは生活です。そして祈りは、キリスト教的生活が深まるにつれて徐々に進歩します。それはまず口祷から始まります。そして、黙想と精神の集中を通じて心の祈りとなります。ついにはキリストと至聖なる三位一体の神との愛の一致に至ります。いうまでもなく、この進歩は、高みに登れば、以前に行っていた祈りの形を捨てるようなものではありません。むしろそれは、神との関係を少しずつ深めることです。神は生活全体を包むかただからです。聖テレサは、祈りの教育者であるばかりか、まことの「秘義教育者」だといえます。彼女は、著作の読者に、自らその人とともに祈りながら、祈ることを教えます。実際、彼女はしばしば説明ないし解説を中断して、あふれるような祈りをささげるのです。

聖テレサにしばしば見られるもう一つのテーマは、キリストの人間性を中心とすることです。実際、テレサにとって、キリスト教的生活はイエスとの個人的な関係です。イエスとの個人的関係は、恵みと愛と倣（まな）びを通じて、イエスとの一致において頂点に達します。それゆえテレサは、主の受難と聖体を重んじます。聖体は、あらゆる信者の生活にとって、教会のうちにキリストが現存することであり、典礼の中心だからです。聖テレサは教会に対する限りない愛を生きました。彼女は

当時の教会の分裂と争いを前にして、深い「教会の感覚 (sensus Ecclesiae)」を示しました。彼女は「聖なるローマ・カトリック教会」への奉仕とその擁護をさらに行うために、カルメル会を改革しました。そのために彼女は自分のいのちをささげる用意ができていました（『自叙伝』：Libro de la vida 33, 5 参照）。

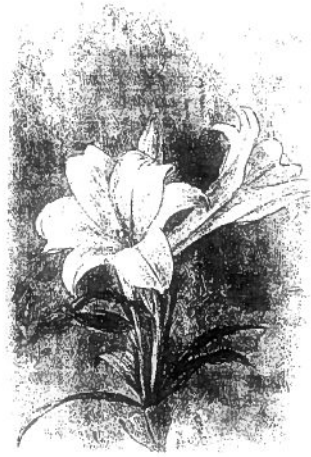
わたしが強調したい、テレサの教えの最後の本質的な点は、完徳です。完徳は、キリスト教的な生活全体が求めること、その究極目的そのものです。聖テレサは、キリスト信者がキリストのうちに「完成」すると、はっきり考えていました。『靈魂の城』の終わりの最後の「住まい」の中で、テレサはこの完成について述べます。この完成は、三位一体の神がわたしたちのうちに住むこと、人性の神秘を通じてキリストと一致することによって実現します。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。イエスの聖テレサは、あらゆる時代の信者にとってキリスト教的な生活のまことの教師です。しばしば霊的な価値を欠いた現代社会にあって、聖テレサはわたしたちに、神と、その現存と、その働きをうむことなくあかしすることを教えてくれます。聖テレサはわたしたちの心の奥深くにおられる、神への渇きを本当に感じることを教えてくれます。神を見、神を尋ね求め、神と語り合い、神の友になりたいという望みを本当に感じることを教えてくれます。このような神との友愛を、わたしたちは皆、必要としています。わたしたちはそれを日々、あらためて求めなければなりません。深く観想的であるとともにきわめて活動的な、この聖女の模範が、毎日、祈りにふさわしい時間を当てるよう、わたしたちをも促してくれますように。祈りは神への開きであり、神を尋ね求める歩みです。

そして、神を見だし、神の友となり、そこから、まことのいのちを見いだすことができますように。わたしたちの多くは本当にこういわずにいられないからです。「わたしは生きていない。わたしは本当の意味で生きていない。なぜなら、わたしは本来の自分の人生を生きていないからだ」。ですから、祈りの時間はむだな時間ではありません。祈るとき、わたしたちにいのちへの道が開かれます。神と神の教会を深く愛し、また兄弟を具体的に愛することを神から学ぶための道が開かれるのです。ご清聴ありがとうございます。

（カトリック中央協議会 司教協議会秘書室研究企画訳）（2011.2.3）

心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一巻

第二十二章 人生のみじめさ

1 幸福な人とは誰？

神のほうに向かないかぎり、どこにいても、どこへ行っても、あなたはみじめな者である。物事が望み通りにいかないと言って、なぜあなたは悩むのか？すべてが自分の望みどおりにいくと言い切れるのは誰か？私もあなたも、この世のいかなる人も、そうは言えない。国王や教皇さえも、この世で何の苦しみも心配ももたない者は一人もいない。幸福な人とは誰のことであろう？それは神のために、何かを耐え忍んでいる人にちがいない。

2 満足する

心の弱い人、あるいは体の弱い人は、「あの人の生活はどんなにいいだろう、どんなに富に恵まれ、どんなに偉く、どんなに高い権勢と地位とを持っていることだろう」とうらやむ。しかし、あなたの心を天に向けなさい。そうすれば、地上のこれらの善が、すべて空しく不確実なもので、不安と恐れとをもって、所有しなければならぬ厄介なものだと知るであろう。人の幸福は、地上のものを豊かに持つことにあるのではなく、適度にあれば十分である。この世に生きるのは、ほんとうにみじめなことである。人は精神の道に進もうと思えば思うほど、現在の生活が重苦しいものになるのである。なぜならば、墮落した人間の欠点を痛切に感じ、それがはっきり見えるようになるからである。食べること、起きること、寝ること、休むこと、働くこと、体の必要に気がつかうことは、こういうことから解放されて、すべての罪からのがれたいと願う敬虔な人にとって、どんなにみじめで悲しいことであろう。

おん父は一つのことばをいわれた。

これがおん子であった。

おん父は永遠の沈黙のうちに

常にこのことばをのべられた。

そして、それを人は

沈黙のうちに、聞くべきである。

～十字架の聖ヨハネ～* 1



2011年度カレンダーの最後の月となりました。師走といわれるこの月、教会暦では新しい年が待降節ではじまっています。8日聖マリアの無原罪の祝日、14日十字架の聖ヨハネの祝日を経て暦は25日主のご降誕祭へと向かっています。

「おん父は一つのことばをいわれた。これがおん子であった。おん父は永遠の沈黙のうちに、常にこのことばをのべられた。そして、それを人は沈黙のうちに、聞くべきである。」と十字架の聖ヨハネは言っています・・・。

みことば、神の賜物を宿された聖マリアは「ご自分がその母となった神のみことばを抱きしめるために、なんという沈黙・潜心・崇拜のうちに心の深みに引き込まれておられたことでしょう。」(*2)と三位一体のエリザベットは待降節中のマリアを黙想しています。そして神が魂の底知れないふちにおいて内的生活をすよう選ばれた人々が生きるべき姿としてエリザベットは見ています。マリアはどれほど深い平和と、深い潜心のうちにすべてのことをしておられたことでしょう。もっとも平凡なことがらもマリアにとって神とともにある神的なものでした。

「このみことばはわたしたちのうちにもおられます。マリアがいだかれたこの愛とともに、沈黙のうちに主のそばにとどまり、待降節をこのようにして過ごしましょう。」(*3)とエリザベットはわたしたち一人ひとりに促します。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

* 1 『愛への道』 聖母文庫、聖母の騎士社

* 2 『光、命、愛へ —— 三位一体のエリザベットの黙想』 ドン・ボスコ社

* 3 『いのちの泉へ』 ドン・ボスコ社

ネットウ

くのり
九里 彰

「次の読みに正しい漢字をあてよ」。

- ① ネットウをそそぐ
- ② ネットウを繰り広げる
- ③ ネットウをささげる

先日、十勝女子カルメルから伊達女子カルメルへ電話したところ、受付の姉妹から、「皆なで熱袴をささげています」という答えが返ってきた。

どういうことかということ、先日、総長顧問のお伴で、北海道の二つの女子カルメルを訪問した。伊達から十勝へ移動した夜、パソコンを使おうとしたところ、USB スティックがない。筆入れに入れて、いつも持ち歩いていたのだが、中にはスティックのキャップしかないのである。伊達に滞在した折、パソコンを使用したことは間違いない。そこで、部屋に置き忘れたスティックを探してほしいとその夜、受付の姉妹に電話で頼んだのである。ところが、もう一人の姉妹と探しに行き、懐中電灯で玄関のあたりまでも探し回ったのだが、見つからなかったと言う。

このスティックには、この二三年間、私が書いた種々の文書が保存されている。大変困る。「そんなはずはありません。修道院の方へ持っていくはずはないので、必ず部屋の中にあるはず。最後にふとんを畳んだりした時、ぶつかって部屋の隅にすっ飛んで行ってしまった可能性もあります…」ではもう一度と、探しに行ったが、結局見つからず、一晚寝て、翌日また探しますということになった。この間、私も鞆や衣服の中を探し続けた。

翌日、昼過ぎに受付の姉妹から再び電話があった。午前中、今度は、修道院に手伝いに来ている人たちも加わり、徹底的に探したが、やはり見つからなかったと言う。そこで、「共同体全体で、(スティックが見つかるよう)神父様のために熱袴をささげています」ということであった。

この祈りのせい、妙な考えが浮かんできた。それは、「USB スティックを初めから持ってきていなかったのではないか」というとんでもない考えであった。翌々日、総長顧問を関西空港に見送り、夜、日比野本部修道院にもどり、私の部屋に入ると、何と、机の上のパソコンに伊達でなくしたはずのスティックがささったままになっていた。……というわけで、伊達の姉妹の皆様、大変お騒がせいたしました。そそっかしい私を、お赦してください (cf. イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい」。マタ 18・21f.)。今度は私が、感謝を込めて、姉妹たちに「ネットウをそそぐ」、ではない、「ネットウをささげ」なくてはならない。

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（149）



神の想像

私たちのとてつもないエネルギーや時間やお金が、他者との距離を保つために使われています。この世界のほとんどではないにせよ多くの資源が、他者に対して自分を守るために、自分たちの力を保ち、増強するために、また自分たちの特権的な地位を守るために使われています。

そのすべての努力が平和と和解のために用いられることを想像してみてください。まだ貧困が存在するのでしょうか。まだ犯罪や戦争があるのでしょうか。人々の間に、もはや恐れがなくなり、もはや競争意識や敵対心や反感や復讐心がなくなることを、ちょっと想像してみてください。この惑星にいるすべての人々が手を握り合い、愛の一つの大きな輪を作っていることを、ちょっと想像してみてください。私たちは、「想像できない」と言うでしょう。けれども神は言うでしょう。「それこそ私が想像していることだ。全世界は私の想像（イメージ）によって創られただけでなく、その想像の内に生きることを」。

(1231)

和解を求めること

私たちは、どのように和解のために働いているのでしょうか。神がまっさきにキリストを通して私たちと神を和解させたのだということを、私たち自身が信ずることによって。このことを頭で信じるだけでは十分ではありません。私たちは、この和解の真理を、私たちの存在のあらゆる部分に浸透させなくてはなりません。私たちが神と和解させられたこと、赦されていること、新しい心、新しい霊、見るための新しい目、聞くための新しい耳を受け取ったということを、すっかり腹の底から確信していない限り、私たちは人々の間で分裂を生み続けることでしょう。なぜなら、彼らが持っていないいやしの力を、私たちは彼らから期待するからです。

私たちが神に属していることをすっかり信じ、神との関係の中で、私たちの精神や心や霊の必要とするものをすべて見出す時にのみ、私たちはこの世で真に自由なものとなり、和解の奉仕者となることができます。それは、簡単ではありません。私たちは、すぐにまた自分を疑い、自分を拒んでしまうからです。私たちは、神の言や秘跡や隣人の愛によって、私たちが本当に和解させられたのだということを、絶えず思い起こす必要があります。

(1226)

（九里 彰訳）

「罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた」(マルコ 1, 4)。

今日の福音を開くのは、「神の子イエス・キリストの福音の始め」です。「始め」は、聖書本文では「アルケー」との単語が使用されていますが、時間的な始めのみではなく、まったく新しいこと、「天地の創造」(参照創世記 1, 1)のように神のみが始めることができる事件を暗示しています。「目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は御自分を愛する者たちに準備された」(1コリント 2, 9)。「福音」とは、人間が予測も、期待も、ましてや要求もできない、憐れみの神のみが発意し、実行される良いことの知らせなのです。わたしたち人間には、知らされて始めて、そのようなすばらしい現実があることを知り、この知らせに信頼して身をゆだねるとき、それまでは期待もできなかった新しい充実にかかされている自分に気付かされる、それが福音です。

「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう」と預言者イザヤが指摘する「あなた」とは、それはイエスに他なりません。「あなたの道」とは、受肉の卑下、十字架の死を通過しての復活の栄光に至る道に他なりません。洗礼者ヨハネは、イエスの誕生のみではなく、その十字架の死をもはるかに指し示す先駆者でした。実は、マルコによる福音は、他の福音書とは異なり、イエスの幼年時代の記述、ある意味ではメルヘン的であるものを割愛して、直裁に、イエスの使信の中心、十字架の死と復活の過ぎ越し秘義に、そして、わたしたちの罪と死から新しい生命への過ぎ越し、悔い改めの秘義に、わたしたちを直面させます。「罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた」。洗礼者ヨハネが語る洗礼は、「わたしは水であなたがたに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる」、イエスの死と復活による洗礼、わたしたちが気づかずに受けた洗礼の予告です。そして、この洗礼の秘義を使徒パウロが説明しています。「わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死に与るものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためです」(ローマ 6, 4)。待降節は、イエスが幼子としてわたしたちのうちにおいてになるのを準備するのみではなく、十字架を通過して栄光に入る方に従い、「福音」に自分を開き、悔い改めの道を、洗礼の秘義により深く入るいとなみを続けてゆく決意を新たにする時なのです。

ルカ 渡辺幹夫

待 降 節 第 3 主 日

“キリスト・・・わたしはその履物のひもを解く資格もない。”(ヨハネ1:6—8 19—28)

待降節の意味深さ、その意義はわたしたちの主のご降誕を、期待と様々の予想を巡らしながら待ち望む心の引き締まる姿勢にあると、ヨハネ パウロ2世教皇はよく仰っていました。わたしたちはその方しかもたらすことのできない喜びを経験することが出来る筈です。第一朗読でイザヤが言っているように、わたしたちは”神である主のうちにあって心から喜ばなければなりません。主は救いの衣をわたしに着せてくださいましたから。”喜びを強調する待降節第3主日は喜びの主日とも言われています。待降節の要は準備することにあります。典礼暦最後の主日の福音において述べられていたことを、わたしたちは今日再び洗礼者ヨハネの回心を呼びかける声のうちに聞くのです。主に向かう道を準備し、謙遜な思いで主に近づくことの大切さを思い起こさせてくれます。

“あなたは誰ですか？”と尋ねる権力者たちに洗礼者ヨハネはためらいなく応えます。なぜ彼らはヨハネにそのアイデンティティを尋ねたのでしょうか？彼らはメシアの到来について知りたかったのです。またヨハネがメシアであるのか、またはメシアが来られる時に戻ってくると言われている偉大な預言者の一人であるのかを知りたかったのです。ヨハネは自分について正しいアイデンティティを持っている人でした。真の謙虚さと真心をもって自分は主の訪れを準備するよう人々に呼びかけ、それを命ずる声にすぎないことを伝えました。洗礼者ヨハネは旧約と新約の橋渡しをしています。彼はメシアへの道を指し示した旧約最後の預言者です。そしてまた新約最初の証し人であり、殉教者です。彼はイエスに向かう道を準備するよう人々に告げる使者です：世の罪を取り除く神の子羊を見なさい！洗礼者ヨハネは距離をおいてメシアが到来し成就される偉大なことを見ていました一わたしたち人類を罪の奴隷から解放し、天の父である神の養子として下さることを。神の子であること、天の国の民であることのアイデンティティをみなさんはどのように認識しておられますか。

洗礼者ヨハネは最も偉大な預言者の一人でしたが、謙遜に忠実に神に仕える者として生きていました。彼は人々に、メシアであり、世の救い主であるイエスを指し示した人です。キリストの教会は、その初めから、洗礼者ヨハネの重要な使命を人々の心に響かせる様々のタイトルを考えてきました：主の証し人、天国のトランプ、キリストの先駆者、言（ことば）の声、真理の先駆者、花婿の友、預言者の冠、救い主の前走者、世の救いを準備する者、殉教者の光、世に仕える者、等々。まだ他に考えられますか？

“主であるイエス、わたしをあなたの真理と恵みのことばの使者とさせてください。福音の喜びを人々に証し、洗礼者ヨハネがしたように、あなたを人々に指し示して行くことが出来ますように！”

(Sr. Paulina)

「わたしは主のはしためです。お言葉どうり、この身に成りますように」(ルカ 1, 38)。

天使ガブリエルは、「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」と、ナザレの貧しいおとめマリアへのお告げの言葉を始めます。「おめでとう」は、原文では「喜びなさい」です。この招きは、神との契約にそむいたイスラエルが、神の祝福から見放され滅亡の闇を歩いているその時に、神が主導権を取って始められる新しい解放の始まりを告げる言葉を背景に持っています。「娘シオンよ、喜び叫べ。イスラエルよ、歓呼の声を上げよ。娘エルサレムよ、心の底から喜び踊れ。主はお前に対する裁きを退け、お前の敵を追い払われた。イスラエルの王なる主はお前の中におられる。お前はもはや、災いを恐れることはない」(ゼファニヤ 3, 14-18)。マリアへのお告げは、独りイスラエルの民が神にそむいた罰の終わりの時だけではなく、全人類、まことの道が見えなくなり、闇からより深い闇にさ迷い歩く人類を神が放置することなく、今や、イエスの十字架の死によって解放の道を開いてくださる、その時が到来したことを告げています。

「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに」。マリアが戸惑ったのは、おとめのまま母になることが理解できないというだけではなく、実は、人間の思いにはもっとも大きな謎である受肉の愚かさの秘儀への戸惑いがあったと思われます。「いと高き方の子」、父ダビデの王座に着き、ヤコブの家を永遠に治め、その支配が終わることのない方、その方が、人間として誕生する、しかも自分のような貧しい女を通して誕生する、これほどの神の卑下を前にする困惑です。「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じものになりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」(フィリ² 2, 5-8)。マリアが母となることも、この十字架の卑下を背景にして始めて把握されるべきものです。また、「わたしは主のはしためです。お言葉どうり、この身に成りますように」、これは、受難の前夜ゲッセマネの園でのイエスの祈り、「父よ、御心なら、この杯をわたしから取り除けてください、しかし、御心のままに行ってください」(ルカ 22, 42)と共鳴します。お告げでのマリアのすべては、十字架の秘儀への聖母だけの独特な参与なのではありませんか。ルカ 渡辺幹夫

***** みことばのひびき *****

主の降誕祭主日 (B)

「みことばは肉となって私たちの間に宿られた。」(ヨハネ1:1-18)

福音史家ヨハネは、彼の福音書を何故**神のことば**の描写で始めているのでしょうか? 「神のことば」はユダヤ人の間では普通の表現でした。旧約聖書の中で神のことばは活動的で、創造的で、ダイナミックなことばでした。「みことばによって天は造られた」(詩篇33:6)。「主は仰せを地に遣わされる。みことばは速やかに走る」(詩篇147:15)。智恵の書の作者は神に「全てのものはあなたによって造られた」(智恵の書9:1)と話かけています。神のことばは神の智恵と同一でもあります。「智恵によって主は地の基を据えられました」(箴言3-19)。智恵の書は「智恵」を神の永遠で、創造的で、光輝く力と表現しています。「ことば」と「智恵」は一つであり同じものと見られています。「沈黙の静けさがすべてを包み、夜が速やかな歩みで半ばに達したとき、あなたの全能の言葉は天の王座から、情け容赦ないつわもののように、この滅びの地に下った。それは、取り消しのきかないあなたの命令を鋭い剣のように手にして、立っていた」(智恵の書18:14-16)。

ヨハネはイエスを人間の形で地上に來られた神の創造的、生命を与える、光を与えることばとして表現しています。イエスは、世界を造り、それを支える神の智恵であり力であり、私たちの救いを達成するために人性をとられた方です。イエスは真の神でありながら真の人間とされました。イエス・キリストは、神であり主でありながら、人間となり私たちの兄弟となった**神の御子**です。

偉大な初代の教父であるグレゴリイ・ナイサ(330-395AD)は次ぎのように書いています。「病めば私たちの本性は癒されることを、落ちれば立ち上がることを、;死ねば復活することを;求めます。私たちは善良さの所有を失いました;私たちはそれを取り戻す必要がありました。暗闇に閉じ込められれば光をもたらすことが必要でした。捕虜になれば救い主を待ち望みます。囚人は助けを求めます。奴隷は解放を求めます。これらのことは小さいことでしょうか、重要でないことでしょうか? 人間がこれほど惨めで不幸な状態にあったのだから、人間性に降り、訪れるように神の心を動かしはしなかったでしょうか?」

私たちが神の栄光を見るとすれば、それはイエス・キリストを通してです。イエスは私たち人間性の分担者となりましたから、私たちはイエスの神性の分担者となることができました(二ペトロ1:4)。私たちに対する神の目的は、創造の初めから、私たちが完全に神と結ばれることです。イエスが來られたとき、神は私たちの主イエス・キリストの父であり神として知られるようになります。私たちがイエスと結ばれることによって、神は私たちの父となり、私たちは彼の息子であり娘となります。あなたたちを贖うために、あなたたちと栄光を分かち合うために、彼のひとり子を送ってくださったことを御父に感謝しましょう。

「全能の神である光の御父、あなたの永遠のみことばは夜の静寂の中、天から降りて來られました。私たちの生命が彼の栄光と平和、喜びに満たされるように彼の生命を受け取るために心を開き、夜明けと共に私たちの視野が増しますように。」 救い主イエスにおいて親愛な友人たちへ!

クリスマスと新年おめでとうございます!

(Sr. Paulina)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (53)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

サマラマラ

カルメル会修道院の背後にある、首都セゴヴィアから北へ3キロほど離れた小さな村についてお話ししましょう。それは、女性を村長や村会議員などに任命する聖アガタのお祭りで有名な村です。

ところでこの村へ、ある日、十字架のヨハネが、土地購入の問題のためにやってきました。会わねばならなかった村人は、ベルメッハのアントンという名の人で、どこから見ても善良な人々の一人でした。さらに彼は、カルメルの第三会員でした。

この善良な人は、すでに知っていた十字架のヨハネ神父が門を通過して入ってくるのを見ると、ほとんど喜びのあまり、気を失いそうになりました。どう祝って良いのか分からないので、彼にぶどう酒の壺をさしだしました。ヨハネ修士は、最初は、それを丁寧にことわりました。アントンがさらに勧めるので、ヨハネ修士は、彼を冷たくあしらわないように、とんでもない時間にぶどう酒を飲むことに慣れていなかったにも関わらず、その申し出を受け入れ、アントンと彼の全家族の健康のためにほんの少しだけ飲みました。

サマラマラに持ってきた問題を片づけた後、ヨハネ修士はセゴヴィアへもどりました。アントンは、ヨハネ修士が残したぶどう酒の残りを飲み干しました。そのぶどう酒は、カナの婚宴の最上のぶどう酒よりも、よいように思われました。彼はその壺を洗い、聖遺物のように保存しました。聖人への崇敬と尊敬から、だれもその記念の壺で、二度と飲もうとしませんでした。この壺は、約三十年後、不注意から落とし、壊してしまうまで、この家族に遺産として大切に保存されていました。



愛に渴いて

丸山知佳子

神さま、今、わたしは、愛に渴いています。

でも・・・それで良かった・・・。

もし、愛の渴きを知らなかったら、

どのように、愛に渴いている誰かを、わかることが出来るでしょう？

愛に満たされて、幸せを感じているとき、

わたしは、無神経になって、誰かを、傷つけてしまうかもしれない。

愛に渴いているとき、痛みを覚えるとき、孤独なとき、

わたしの心に、大きな力が働き、祈り始めてくれるのです。

愛に渴くなんてつらい。

でも、愛の渴きを知っていることに感謝します。

病気もつらい。

でも、病を知っていることに感謝します。

どうか、わたしの人生も、他者と分かち合うためのものでありますように。

愛の渇き、孤独、祈りの無味乾燥、長く続く病、理解し合えない悲しみ、自分の弱さ、生きることの虚しさ・・・もし、これらのことを知らなかったら
一体、

みんなと、何を分かち合えるでしょう？

キリストと、何を分かち合えるでしょう？

どうやって、キリストと出逢えるでしょう？

主の晩餐で奉げられるあのパンとともに、何を奉げられるでしょう？

神さま、心の中に広がる、真っ暗な空を見上げます。

主のお生まれになる、「あの場所」を示す星を見つけるために。

真っ暗に感じるからこそ、その星を見つけられる絶好の機会かもしれない。

神さま、愛に渇いているわたしを、私達を、憐れんでください。

でも、愛に渇けば渇くほど、わたしの心の中に、愛の深い井戸を掘ることが出来ますように。

アーメン。

聖堂の一番後ろの台の上には、聖書と典礼や聖歌集、お知らせの紙、パンフレット等々たくさんのもので置いてあります。

10月初めの主日、私はそこにあまりにも思いがけないものを見て、棒立ちとなって息をつめました。

淡い水彩で描かれた奥村神父さまの、はがき大の肖像画があったのです。

清水明廣という画家の、作品展案内の郵便はがきに描かれて積み置かれてあるのですが、突然の出来事にびっくりしてしまい、手をのぼすのがためらわれたほどでした。

奥村神父さまには、20年以上にもわたって親しくご一緒させていただき、貴重なお教えを、そして後年には魂の交わりとも呼びたいものをいただきました。

敬愛の念を深く深く抱いています。しかし、この数年、神父さまが病の療養に専念されるようになられてからは、お会いすることなく過ぎていました。

いつも心にかかっている、面会された方からのお話を伺い、その都度のご様子に感じ入ったり憂慮したりしていたのですが、はがきの肖像画は、もうほんとうに目の前にはったりお会いしたかのような現実感で、圧されました。

秀でた額、穏やかな優しげな眉、しっかりと結ばれた意志の口元、めがねの中のまなざしは、あまりにも遠くを見すえておられるようで、哀しいほど柔らかいです。その柔らかさをじっと見つめていると、どこか見知らぬ深みへと誘いこまれ引きこまれるような感があり、澄みきった静かさにたじろぎます。

それはお会いしていた頃の、お元気なころの神父さまよりもっともっとはるかに奥村神父さまその人であるようでした。

見なれたカルメル会の修道服でもなく、ローマンカラーでもなく、衿つきの青いシャツにガウンを羽織っていらっしゃるのですが、英知の輝きの強さといったものは内に内に沈み、そこにあるのは、裸の魂といえるものが放射するきよらかな平安、向い合う身を満たす温かな心地よさがみなぎっています。

ただ、この案内のはがきには、肖像画が奥村神父さまであるとどこにも明記はされていないのです。勿論そうに違いないのですが、確かめたい思いはありました。

私がこのはがきを見た日曜日は作品展の最終日にあたっており、会場もかなり遠方でしたので、とりあえず会場に電話してみました。

受付とらしい人がでられたので訊ねると、そうです、奥村神父です。今ここに作家さんがおられますので電話をかわりますと云われ、何と描き手ご本人である清水明廣氏と暫しお話することとなりました。

「奥村神父さまです。すぐお分かりになりましたか」 「今年の秋に初めてお目にかかり描かせていただいたものです」

「それはもう、すぐ分かりました。びっくりしました。懐かしく胸がいっぱい。」「ほんとうに奥村神父さまらしいとてもいい絵です。大切にいたします。ありがとうございます」と伝えながら、涙で声がつまりました。

その数日後、教会の古くからの友人に絵を見せたところ、ああと深い嘆息をもらし、いいお顔ねと感に堪えない声をあげました。その瞬間、私は何か堰が切れて不覚にも泣きだしてしまいました。

「夜回りよ、今は夜のなんどきですか」イザヤ書21章にある言葉ですが、私はこれをアンドレ・ブランシェ師著「文学と霊なるもの——火の夜」のエピグラフで目にし、深く心に留めました。

パスカル、マリー・ノエル、ジュリアン・グリーンなど、深い淵の漆黒の闇を生き、暗い夜にどうしようもなく惹かれていく者の世界を描いています。

カルメルの霊性とは、神ゆえに自己を忘れるのだといわれます。神ゆえに自己を失うのだといわれます。愛ゆえに命までも捧げられたイエズスキリストに従って、自らも十字架の人となるを望むのだといわれます。それはとりもなおさず魂の暗夜を生きることに他ならないと思っています。

カルメル会の司祭以外ではあり得ない奥村神父さまです。この肖像画を手にして私は「夜回りよ、今は夜のなんどきですか」と問わずにはられません。

十字架の聖ヨハネは、恵まれしそのときよと「幸いな運きざめ」を歌います。夜こそが光なのだと示します。そうなのだと心底知りつつも、ただただ深く頭を垂れるしかないのです。

折しも待降節です。

「夜回りよ、今は夜のなんどきですか」

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

24. 神の僕 イエスのジャック・ビュネル神父 (1900-1945) — その2

1900年1月20日、ルシアン・ビュネルは、フランス、バランタンBarantaneの労働者階級の家庭に生まれた。五人の兄弟と一人の姉妹がおり、家の手伝いをし、笑いの絶えない、ごく普通の家庭であった。ルシアンは、優秀な学生であり、皆から尊敬され、優しく、楽しいことが好きで、寛大な人物であると評されていた。

1912年、ルーアンの小神学校に入学。兵役のため、勉強を一時中断しなければならず、1925年に司祭に叙階された。教師、校長、ボーイスカウト団の霊的指導者、そして傑出した説教者でもあった彼は、数々の荘厳な行事に招かれて、話をした。

重い腸チフスを患ったとき、ルシアン神父は、修道生活への燃えるような望みを抱くようになった。トラピスト会をまず考えたが、すでに数多くのカルメルの著作に親しんでいた彼は、1927年7月、女子カルメル会で修道女たちと語り合っているときに、カルメル会への召命を感じるようになり、さらに、その後、マリー・エウジェヌMarie Eugène神父と出会い、カルメル会の理想を聞き、これこそが自分の望んでいたものであることを知った。しかし、大司教が、彼を手放すことを惜しんだので、カルメル会入会までには、その後2年間待たなければならなかった。ついに、1931年8月、カルメル会入会が実現。そこには、彼の望んでいたすべて——平和、孤独、祈り——があった。着衣のとき、修道名として、イエスのジャックという名を与えられた。当時の院長は、「彼の聖性は、閉域を越えて、あふれ出ていた」と証言している。1932年、有期誓願宣立。その後、すぐに、アヴォンAvonに小神学校を創立しその校長となるため、派遣された。

翌年の夏、終生誓願準備のためカルメル会修道院に戻り、その次の年に終生誓願宣立、その後、再び、小神学校に派遣された。忙しい日々日々の合間に、森に行き、観想のひとときを過ごすことを好んでいた。このような観想の時を持つことを彼は必要としていたのである。学校は、優秀な教授陣と、一人一人の生徒の尊厳に対して深い関心を寄せる教育のゆえに、有名になっていった。

1938年、チェコへの進軍に際して、従軍司祭として同行、そこでも彼は生涯にわたる友情を築いた。いったんはアヴォンに戻ったものの、再び従軍司祭となり、フランス軍敗退に及んで、ドイツ軍の戦争捕虜として5か月間収容所生活を送ることとなる。ここで、彼の霊性は深められ、チャプレンChaplainとして司祭職を行使することもできた。1941年、釈放後、アヴォンに戻り、学校を再開したが、レジスタンスのメンバーとして積極的に働き、また、ユダヤ人の生徒を学校に受け入れていたことを理由に、1944年1月15日、3人のユダヤ人生徒たちとともに逮捕された。

逮捕後、4か所の収容所を転々とさせられたが、どこへ行っても彼は希望と神の愛をもたらし、ひそかに、ミサを捧げ、秘跡を執り行った。与えられた食物がわずかしかないときでさえ、彼は自分の分を人に譲り、健康を害してまでも、人に与え続けた。1945年5月、収容所から解放されたとき、彼は、最初に食物を与えられ、看護を受けることもできたのであるが、他者に順番を譲り、自分は待つことを選んだ。戦争によって、体力を著しく消耗していたジャック神父は、すでに結核に侵され、体重は34kgにまで減少しており、解放から1か月後の6月2日、安らかに最期の時を迎え、アヴォンのカルメル会墓地に葬られた。

イスラエル政府により「諸国民の中の正義の人」の称号を与えられ、映画『さよなら子供たち』(フランス・西ドイツ共同制作、1987年)に登場するカトリック校校長のモデルとなった。

— 祈り —

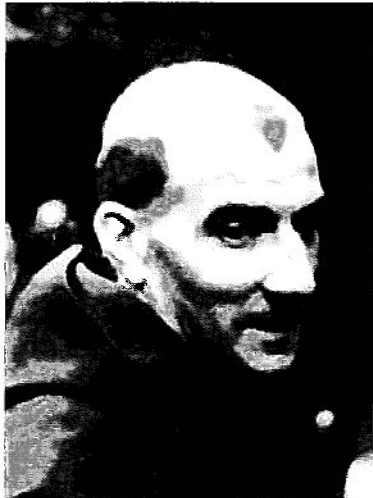
父と子と聖霊の御名によって、聖なるおとめマリア、聖ヨセフ、すべての天使と聖人、特に私の保護の聖人、聖ルイ、聖ルシアン、聖ステファノ、聖ベルナルド、聖ベネディクトの御前で、私、ルシアン・ルイ・ビュネルは、今日、喜びのうちに、主イエス・キリストの取次ぎによって、至聖なる三位一体に、決定的に自分を奉献いたします。

自分がしようとしていることを明確に意識し、この行為の結果として生じる義務を十分に吟味したうえで、私は、善なる神への奉仕のために、永遠に自分を主に奉献いたします。余すところなく、全力を尽くして、私の体を神にお捧げします。すべての力と能力を尽くして私の靈魂を神にお捧げします。一言でいえば、ただ一つのこと——今から後は、私の命が、神をお喜ばせするために神に向かって永遠に立ち上る香となること——を望みながら、私の全存在をお捧げします。

しかし、私は、同時に、自分の弱さをも十分に認識しています。私一人では、罪を犯すことしかできません。ですから、私は善なる神の慈しみを待ち望みます。神ご自身が私のうちにお働きになり、お望みのままに私を変容してくださるよう、そして、永遠に至るまで、神の思いのうちに私を運んでくださるよう、自分を神にお捧げします。

おお、私の神よ、炎のような矢が私のうちにあるのです。この燃えるような感情の炎を、この祈りの中で、言い表さなければなりません。あなたは、私がどれほど熱烈にあなたを望んでいるか、どれほどの情熱をもってあなたを所有し、あなたを知り、あなたを抱きしめたいと望んでいるかをご存じです！ おお、私の神よ、あなたご自身が私のうちで行動し、あなたの無限の愛のうちに私を焼きつくし、私を魅了し、あなたのうちに私を吸収してください。1924年7月12日土曜日、この祝された日が、私の生涯において、真にあなたとの一致に導く一歩となりますように。

(1924年7月11日、ルーアン大神学校にて、助祭叙階の前の祈り)



神の僕 ジャック神父

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在世会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(泰阜カルメル会訳・編)

いのちの言葉 11月

だから、目を覚ましていなさい。
あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。

(マタイ25・13)

イエスが神殿から出て来られた時のことです。弟子たちが誇らしげに神殿を指さし、その壮大さ、美しさを示したのに対し、イエスは言われました。「これらすべての物を見ないのか。はっきり言うておく。一つの石もここで崩されずに他の石の上に残ることはない」と。またオリーブ山に上られた時、イエスはエルサレムを見下ろして、この町が破壊される時や世の終わりについて、話し始められました。

そこで弟子たちは「世の終わりはどのように起こるのだろう。いつ訪れるのだろう」と尋ね合いました。後世のキリスト者たちも、同じような問いかけをしましたし、これは誰もが抱く問いであるかもしれません。実際、未来は神秘に包まれており、人は恐れを抱くこともしばしばです。今でも、占い師の所に行ったり、星占いをしたりして、将来のことを知ろうとする人がいます。

さて、イエスの答えは明快です。世の終わりとは、ご自分が世に来られる時なのです。歴史の主であるイエスが、地上に戻って来られるのであり、彼こそ、私たちの未来に輝く光です。

では、イエスとの出会いはいつになるのでしょうか。それは誰にもわからないことで、いつ起きても不思議はありません。実際私たちの命は、イエスの手の中にあります。私たちに与えてくださったこの命を、イエスは何の予告もなく、突然取り去ることもおできになるのです。ただし次のように、前もって私たちに教えてくださいました。「あなたがたが目覚めているなら、それこそ、私との出会いに向けての準備になるのだよ」と。

「だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。」

この言葉を通して、イエスは、いつかご自分が地上に戻って来られることを、まず私たちに思い出させてくださいます。私たちの地上の命はいつか終わりを告げ、終わりのない新たな命が始まるでしょう。今の時代には、死について話したがる人はいません。人は何とかそれを考えまいとして、日々の雑事に没頭し、やがて命の与え主であるイエスのことすら忘れてしまいます。私たちが永遠の命を得て、御父と交わり、天国に入るため、イエスは私たちにお与えになった命を、再びお求めになるでしょう。

その時、私たちはイエスに会う準備ができているでしょうか。花婿を待つ賢い乙女たちのように、私たちの「ともし火」は燃えているでしょうか。その時、私たちは愛の内にいられるでしょうか。あるいは、多くのしなければならぬこと、はかない喜びや物質的な富を得ることに心を奪われて、「愛する」という唯一必要なことを忘れ去り、私たちのともし火は消えていないでしょうか。

「だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。」

しかし、目覚めているためには、どうすればいいのでしょうか。愛する人はだれよりもよく目覚めている、ということ私たちが知っています。仕事で帰りが遅くなった時、出張から戻ってくる夫を待つ妻には、

それがわかるでしょう。家にまだ帰ってこない息子の身を案じる母親、恋人に会う時が待ち遠しくてならない人も、同様です。愛する人は、相手の着くのが遅くなっても、待つことを知っています。

ですから、私たちがイエスを愛し、彼との出会いを心から望んでいるなら、彼を待つことができるでしょう。

私たちは、イエスとの出会いを待ちながら、具体的な愛を生き、周りの人の中におられるイエスに仕え、より正しい社会を建設するために働くことができます。このような生き方に私たちを招いておられるのは、イエスご自身です。忠実な僕（*ルビシもベ）が主人の帰りを待ちながら、よく使用人の世話や家の管理をするたとえば、主人が戻るのを待ちながら、預かった数タラントンのお金を増やそうと努めた僕のたとえを話してくださったのも、そのためです。

「だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。」

イエスが来られる「その日、その時」を知らないからこそ、私たちは、与えられた今日という日に、もっと集中することができます。心配事もその日その日と考え、生きるために神様から与えられた今の瞬間の中に、しっかりとどまることができるでしょう。

随分前になりますが、私の心から神様に向かって、自然と一つの祈りが生まれたことがあります。それを思い起こしてみよう。

「イエスよ

私が話す時

いつもそれが

最後の言葉であるかのように

話させてください。

私が何かをする時

いつもそれが

最後の行いであるかのように行動させてください。

私が苦しむ時

いつもそれが

あなたに捧げられる
最後の苦しみであるかのように
苦しむことができるように
してください。

私が祈る時

いつもそれが

この地上であなたと語らう

最後のチャンスであるかのように
祈らせてください。

キアラ・ルービック

フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に掃天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、2002年11月に発表されたものです

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

★ お知らせ

関東：

「いのちの言葉」の集い

日時：11月13日（日）14：00

（13：30 受付）

場所：カトリック大和教会

（小田急線「南林間」下車）

新しい人類運動のつどい

日時：11月19日（土）15：00～

場所：男子フォコラーレ（高井戸）

* 詳細はフォコラーレ・センターまで

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：で検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresit0>

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



<< Communications (時事通信) >>

大洪水により、タイのナクホンサワンのカルメル修道女会の修道院は全面浸水、
修道女全員が避難

ローマーイタリア発、2011年11月1日

タイ半島を直撃した豪雨と台風による大水害のために、ナクホンサワンのカルメル会修道女は修道院からの避難を余儀なくさせられました。その地域の報道によると、豪雨は修道院全域に浸水し、必要な家財を破壊するに至りました。修道女達は全員避難しなければなりませんでしたが、皆、無事で元気でした。

今年のモンスーンはこの地域全体に大きな被害をもたらし、家屋や作物、公共設備の基盤をことごとく破壊しました。福音宣教省事業部の報告によると、タイの国土の三分の一の地域が浸水被害に遭い、数十万人もの住民が避難する場所を捜し求めねばなりませんでしたが、アジアのタイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオス、フィリピンの全域では、約800万人がこの大水害の被害を受け、死者700名が犠牲となり、その四分の一は子供たちでした。

聖テレジア生誕500周年記念祭にあたり、アヴィラの司教は教皇様に2015年を
”祈りの年”と宣言されるよう嘆願しました。

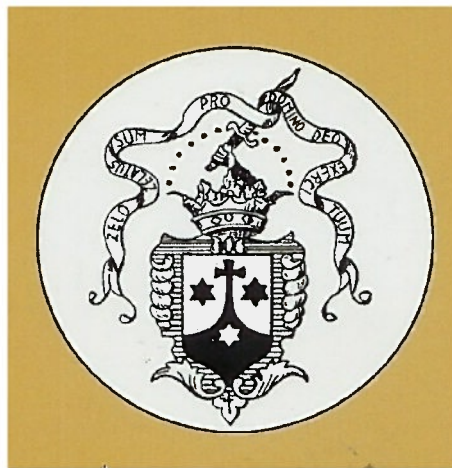
アヴィラースペイン発 2011年10月25日

アヴィラのヘスス・ガルシア・ブリヨ司教は、アヴィラ教区の全教会、修道院宛に、2015年を”祈りの年”と宣言されることを支持するよう依頼の手紙を出しました。これは、カルメル修道会が聖テレジア生誕500周年記念祭にあたり、教皇様に2015年を全教会の”祈りの年”と宣言されるよう嘆願したことに追随するものです。またガルシア・ブリヨ司教は、教区の信徒と奉献生活者を招いて、2015年を”祈りの年”とし、”その保護者を聖テレジアをとすること”を求めるヴァチカンの国務省長官タルチシオ・ベルトーネ枢機卿宛の嘆願書に、彼らの署名を付け加えました。

この賞賛すべき行動が、世界中の管区長や地域の長上や司教によって取り上げられれば、上述の宣言のために信徒の世界的な支持があることを示すことになるでしょう。このことは、40年以上前、聖テレジアが”教会博士”の称号を受けるに先だって起こったことでもあります。

今年5月19日のテレジアヌム（跣足カルメル修道会国際神学院）の教皇特別謁見の折に、総長は教皇様に2015年を全教会における”祈りの年”とする可能性についてお伺いを立てました。また、9月にアリッチアで開催されたカルメル修道会の拡大総長顧問会において、これに参加したカルメル会の司教達は、教皇様に同様の嘆願状を送りました。

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ '12年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 一泊聖書深読指導：新井延和神父

(毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2012年

3月9日～10日

2. 奉獻生活者のための黙想会

2011年

12月27日(火)夕食～1月5日(木)朝 福田正範神父

3. 木曜黙想会(毎回木曜日10時～16時)

2012年

1月26日 「永遠のいのち - 霊から生まれた者は霊である -」 中川博道神父

4. 金曜黙想会カルメルの聖人(毎回金曜日10時～16時)

2011年

12月16日 「十字架の聖ヨハネ」 福田正範神父

2012年

2月17日 「幼きイエスの聖テレジア」 福田正範神父

5. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2011年12月24日(土)～25日(日)《講話なし、夕食なし》

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

待降節黙想会



Hodie nobis celorum rex

(This day unto us the King of heaven)

--late 1220s Italia, Bologna--

指導司祭：川村 信三 神父

イエズス会司祭

上智大学文学部史学科教授

「信徒の靈性」

—キリシタンの生き方に学ぶ—

2011年12月10日(土)

10:00~15:30

カトリック上野毛教会

- | | |
|-------------|-----------------------------------|
| 9:00~10:00 | ゆるしの秘跡) 黙想会の前 9時から『ゆるしの秘跡』を受けられます |
| 10:00~11:00 | 講話 (1) (聖堂) |
| 11:00~12:00 | ゆるしの秘跡(聖堂 他) |
| 12:00~13:00 | 昼食(信徒会館1階ホール) |
| 13:00~14:00 | 講話 (2) (聖堂) |
| 14:00~15:00 | ミサ (聖堂) |
| 15:00~ | 茶話会 (信徒会館1階ホール) |

参加申込みの必要はありませんが、
昼食(サンドイッチ)ご希望の方は
聖堂 入口の 申込み表に 氏名を
ご記入ください (締切 12月4日)

金曜黙想会

《カルメルの聖人》



十字架の聖ヨハネ

日時：2011年12月16日〔金〕 10:00～16:00

場所：カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

指導：福田正範師（カルメル会司祭）

会費：¥3500（昼食付）

持ち物：ノート、筆記用具



★ お申込みは、ハガキ、FAX、E-mailで下記までお願い致します。

定員は、20名です

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1764

Email: mokusou@carmel-monastery.jp

降誕祭のミサに参加するための黙想



* 日時： 12月24日（土）夕食なし～25日（日）朝食後 10時まで
24日（土）は、午後3時より入室できます。

講話は、ありません。

夜半のミサより主のご降誕（日中のミサ）にかけて
主イエス・キリストのご降誕を黙想し、静修の時を過
ごしましょう

*費用： ￥4000

* お問合せ、お申込みは、上野毛聖テレジア修道院（黙想）

電話：03-5706-7355・FAX03-3704-1764

★★★★★ 上野毛教会クリスマスミサご案内 ★★★★★

★ 12月24日（土）降誕夜半

16：00～ 子供のミサ

19：30～ （クリスマスキャロルは、19：00～）

0：00～

★ 12月25日（日）主の降誕

7：00～ （早朝ミサ）

10：30～ （日中ミサ）

18：00～

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きたることです。皆様のご参加をお待ちしています。

* 日時：2012年3月9日（金）18時～10日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）



* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764



講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

12月20日	12月20日*火曜日
1月31日	1月31日*火曜日
2月21日	2月24日

キリストとの親しさ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

12月6日	12月9日
1月17日	1月17日*火曜日
2月7日	2月10日

キリスト教の基本を学ぶ

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

いずれも 金曜日

朝のクラス《10:30~12:00》

夜のクラス《19:30~21:00》

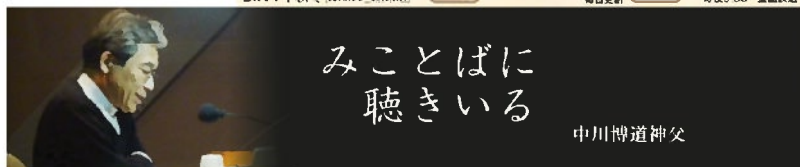
14	12月2日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(2)
15	12月16日	「キリストと共に生きる道」(1)
16	1月13日	「キリストと共に生きる道」(2)
17	2月17日	「主の祈り」
18	3月2日	「キリスト者が大切にしていること」

キリスト教放送局放送中
ラジオ(月)夜10:15~
インターネット放送 いつでも

キリスト教放送局
FEBC
2011年秋冬(2011.10.2~2012.3.31)

インターネット放送
www.febejp.com
毎日更新

AMラジオ放送
AM1566kHz
毎夜9:30~全国放送



お問い合わせ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

2011年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【聖書深読黙想会】

- 1日黙想 (午前10時～午後4時)
12月10日(土) 新井延和神父
- 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)
12月14日(水) 愛の生ける炎 九里彰神父
- 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)
12月 3日(土)～12月 4日(日) 松田浩一神父
- 【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)
12月27日(火)～ 1月 4日(水) 新井延和神父

2012年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 【一般のための黙想】
・ 1泊2日
(午後5時～午後4時) | 1月 28日(土)～29日(日)
3月 24日(土)～25日(日)
5月 12日(土)～13日(日)
7月 7日(土)～ 8日(日)
9月 1日(土)～ 2日(日)
11月 24日(土)～25日(日) | 一つになる
一粒の麦
聖母の愛
聖霊の体験
神の国の訪れ
黙示録 | 今泉健神父
九里彰神父
新井延和神父
今泉健神父
松田浩一神父
新井延和神父 |
| 【聖書深読黙想会】
・ 1日
(午前10時? 午後4時) | 2月 4日(土)
4月28日(土)
6月30日(土)
10月 6日(土)
12月22日(土) | | 松田浩一神父
新井延和神父
新井延和神父
新井延和神父
新井延和神父 |
| ・ 水曜の黙想
(午前10時? 午後4時) | 1月 11日(水)
2月 15日(水)
3月 14日(水)
4月 18日(水)
5月 30日(水)
6月 20日(水)
7月 25日(水)
9月 5日(水)
10月17日(水)
11月 14日(水)
12月 12日(水) | 私たちの福音宣教
悔い改め
聖ヨゼフの愛
復活のキリスト
マリアとヨゼフ
キリスト教信仰
真理
テレーズと共に
終生おとめ聖マリア
キリストの第二の到来
受肉 | 松田浩一神父
新井延和神父
新井延和神父
今泉健神父
新井延和神父
松田浩一神父
新井延和神父
今泉健神父
松田浩一神父
今泉健神父
新井延和神父 |
| ・ 四旬節の黙想
(午後8時～午後4時) | 3月2日(金)～3月4日(日) | 神の子主キリストの憐れみ | 松田浩一神父 |
| ・ 待降節の黙想
(午後5時～午後4時) | 12月 1日(土)～12月 2日(日) | 肉となったみことば | 今泉健神父 |

2012年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

・聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)	9月30日(日)～10月1日(月)	伊従信子師
【キリスト教霊的同伴】 (午後8時～午後3時) 限定10人	5月2日(水)～5月6日(日)	松田浩一神父
カルメル青年黙想会 (午後5時～午後4時)	4月28日(土)～4月30日(月) 観想者イエス。キリストに従う	カルメル会士
	11月10日(土)～11月11日(日) 観想者聖マリアに従う	カルメル会士
【一般のためのカルメルの霊性入門】 (午後5時～午後4時)	2月24日(金)～2月25日(土) イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの霊的識別	松田浩一神父
	10月14日(日)～10月15日(月) イエスの聖テレサの靈魂の城の導入	松田浩一神父
奉献生活者の黙想 (午後5時～午前9時)	8月2日(木)～8月11日(土) 8月16日(木)～8月25日(土) 12月27日(木)～1月5日(土)	松田浩一神父 今泉健神父 新井延和神父

祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

4月5日(木)～4月8日(日){講話なし、各食事つき}

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

12月24日(月)～12月25日(日){講話なし、各食事つき}



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

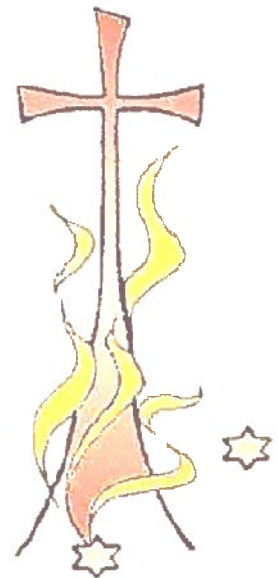
- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6 人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2011年 | 1月21日(金)～22日(土) |
| ② | | 2月18日(金)～19日(土) |
| ③ | | 3月25日(金)～26日(土) |
| ④ | | 4月15日(金)～16日(土) |
| ⑤ | | 5月13日(金)～14日(土) |
| ⑥ | | 6月17日(金)～18日(土) |
| ⑦ | | 7月22日(金)～23日(土) |
| ⑧ | | 9月 9日(金)～10日(土) |
| ⑨ | | 10月28日(金)～29日(土) |
| ⑩ | | 11月11日(金)～12日(土) |
| ⑪ | | 12月16日(金)～17日(土) |
| ⑫ | 2012年 | 1月13日(金)～14日(土) |
| ⑬ | | 2月10日(金)～11日(土) |
| ⑭ | | 3月16日(金)～17日(土) |

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2012）

「イエスにお目にかかりたいのです」

—今の時代から「イエスに会いたい」と問われているわたしたち—

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12-21)。この願いは、(中略)大聖年を過ごした私たちの耳にも霊的にこたましています。二千年前の巡礼者のように、今日の人々は今日の信仰者に、たとえ意識的にでなくとも、キリストについて「語って(正しい)だけではなく、ある意味でキリストに「会いたい」と願っています。教会の務めは、歴史のあらゆる時代にキリストの光を放つことであり、今日も、新しい千年期の人々の前に、キリストのみ顔の光の輝かせることではないでしょうか。

しかし、わたしたちがまずキリストのみ顔を観想しない限り、わたしたちのあかしは耐え難いほど貧弱なものであるに違いありません。

(教皇ヨハネパウロ二世使徒的書簡「新千年期の初めに」p. 22)

第1回	1月9日(月・祝)	キリストの御顔の観想と宣教(全体の導入)	中川博道神父 (上野毛修道院)
第2回	2月	苦しみとイエスに出会うこと	
第3回	3月31日(土)	イエスの聖テレジアにおけるキリストの福音	松田浩一神父 (宇治修道院)
第4回	4月14日(土)	復活したキリスト：復活のラウレンシオ	今泉健神父 (宇治修道院)
第5回	5月26日(土)	聖霊が働く	新井延和神父 (宇治修道院)
第6回	6月16日(土)	三位一体のエリザベットと宣教	九里章神父 (本部修道院)
第7回	7月7日(土)	聖体と宣教：ヘルマン・コーン	古川剛雅神父 (上野毛修道院)
第8回	9月	マリー・エウジェニオ師と宣教	Sr.伊従信子(予定)
第9回	10月20日(土)	布教の保護者、幼きイエスの聖テレジア	Sr.パウリナ(宣教カルメル修道院)
第10回	11月	十字架の聖ヨハネと宣教	

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
 - 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お吉げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へカキか FAX で、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825
 一泊静修連絡係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子
 TEL・FAX 052-701-3685

わたしたちキリスト者は今、このような人々の願いの前に立たされています。そして、この願いに応えるものとなるために、私たち自身がキリストのみ顔の光を真実に探すことに招かれています。

カルメルにおいて、イエスに出会った先人たちの出会いの生きた体験とそのメッセージに聴き入りながら、私たちが“人々のキリストとの出会い”に仕えるものとなっていく道をともに探りたいと思います。

このようなテーマのもとに、名古屋霊性センターの2012年度「都会の中の一泊静修」を行いたいと思います。

2012年度名古屋聖書深読会

第1回 4月30日(月・祝) 新井延和神父(宇治修道院)

第2回 10月27日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30～16:30 の予定で行います。

ご自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき
(来る時間も帰る時間も自由)、靈的にだけでなく
心身ともにリフレッシュできる時間としてご利用下さい。

日時 毎月第3土曜日 13:30～16:30

場所 三馬教会(石川県金沢市)

プログラム

13:30～15min. 聖書朗読と短い講話

14:30～15min. ベネディクション・聖体顕示

15:30～15min. サルヴェレジナ・聖体拝領

16:30 終了



各合間の時間は各自自由に黙想しながら祈る時間です。

カルメル靈性センター

〒921-8162 金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会三馬修道院 三上和久神父

TEL 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

2011 「カルメル」 今日の霊性・秋号 特集号



2011 秋 No.342

カルメル 2011 特集号

「混沌の時代に生きる道を探して」

特集

● 目次 ●

荒れ野を行く道

中川博道 2

キリスト教の歴史から学ぶ
―悔い改めた信徒のエネルギーと教会の再生

川村信三 16

使徒職の現場から

釘宮禮子 29

神のいつくしみの中に生きる
イエスの聖テレサ

松田浩一 37

暗夜の中を歩む 十字架の聖ヨハネと共に

九里 彰 51

● 目次 ●

二〇一一年特集 マリー・エウジェニス (3)

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父
―人々の渴きに応える

伊従信子 3

使徒となるために
―祈りと活動の調和を求めて

中山眞里 11

「完徳の道」におけるアヴィラの聖テレジアと離脱 (2)

九里 彰 17

カルメルの霊性の源流を探して (5)
―その「会則」に見る生活

中川博道 23

修道院生活 春夏秋冬 (3)

高橋重幸 29

私の武器

―幼きイエスの聖テレサが ペトロ・アロイジオ
一八九七年三月二五日に書いた詩

36

ナチスのユダヤ人迫害とエディット・シュタイン
須沢かおり (1)

44

大きな愛に出会う

森 みさ 50

愛の断章 (2)

奥村一郎 56

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：
サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

新刊紹介

神と人びとへの 燃える愛の心からあふれたでた短い言葉集

テレーズの短い人生のなかで残された言葉が
四季の花々のように光をあび、輝いています。

毎日美しい1日をはじめるために 愛と信頼、委託、喜びの言葉！



レイモンド・ザンベリ / 編
伊従 信子 / 編訳

女子パウロ会出版 391 ページ

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーパー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
マリアの御心会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2011年予定

M 4 12/11 (日) -12/17 (土) 兵庫・売布・女子ご受難会

2012年予定

M 1 01/13 (金) -1/19 (木) 兵庫・売布・女子ご受難会

K 1 01/24 (火) -1/30 (月) 東京・小金井・聖霊会

M 2 02/13 (月) -2/17 (金) 韓国グループ限定 兵庫・売布・女子ご受難会 (4泊5日)

P 1 02/11 (土) -2/17 (金) 西宮・女子トラピスチヌ

K 2 03/02 (金) -3/08 (木) 東京・小金井・聖霊会

B 1 03/10 (土) -3/16 (金) 千葉白子・十字架イエス・ベネディクト

M 3 03/23 (金) -3/29 (木) 兵庫・売布・女子ご受難会

P 1 04/10 (火) -4/16 (月) 西宮・女子トラピスチヌ

N 1 04/27 (金) -5/03 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム

K 3 06/01 (金) -6/7 (木) 東京・小金井・聖霊会

N 2 06/15 (金) -6/21 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム

真命山 2011年 — 祈りの集いのご案内

真命山は、次の意向で来訪される方々を歓迎します

- ・ 祈りの時をすごし、静かに内省し、沈黙の中で黙想し、静修し、神のことばを聞く
- ・ 自然の中で自分の信仰の根源を探求する



真命山の一日の流れは、祈りと働きです

午前

- ・ 朝の祈り(太陽が昇る時)
- ・ 座禅
- ・ ごミサ



午後

- ・ インマヌエルの祈り
- ・ 晩の祈り(日没にあわせて)
- ・ 寝る前の祈り

毎第二木曜日、一般人参加による一日の祈りの集い。
2011年の祈りの集いテーマは次の通り

典礼暦年間を通して教会とともに祈る



1 月 13 日	典礼暦一年の周期
2 月 10 日	聖人の記念日 1
3 月 10 日	四旬節
4 月 14 日	過越の三日間
5 月 12 日	復活節
6 月 9 日	聖霊降臨の祭日
7 月 14 日	聖人の記念日 2
9 月 8 日	聖人の記念日 3
10 月 13 日	日曜日 主の日
11 月 10 日	待降節 1
12 月 8 日	待降節 2

毎月第二木曜日、一般人参加による一日の祈りの集いには、どなたでもご参加いただけます。ご参加希望の場合は、あらかじめ電話・ファックス・メールでお知らせください。

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr. マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・霊性交渉センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
(要予約)

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、

9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の
関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見て下さい。
冬学期: 中世のスコラ学・神秘思想(11-15世紀) 12/03、12/10、01/07、1/14、01/21、01/28

●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分
木曜日 18時～20時30分
(祝日、4月21日を除く)
場所: 上智大学内クルトウルハイム1階正面左の部屋
3回坐り、間に講話があります。
初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

●接心

秋川神冥窟 1泊2400円程度
関東
11月02日(水):20時30分-11月6日(日) 10時

●ミサ 水曜日 17時10分～18時

上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

●ミサ後の黙想

18時～18時30分 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分～16時 上智大学内SJハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
12月3日、
2012年1月7日、2月18日、3月10日

●ロザリオの祈り 同日16時10分～50分
クルトウルハイム1階右小聖堂

●黙想

【会社帰りの黙想】
毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。
但し祝日、8月9日休み。8月23日は上智大学内クルトウルハイム聖堂。
【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日
10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア聖堂 但し祝日、8月2日は休み。

●黙想会

2012年 2月4日(土)10時～5日(日)15時(東村山)
*1泊5900円程度

●アガペ会

2012年 1月21日(土)
説明会・集い(13時半～): 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
ミサ(17時～): クルトウルハイム1階テレジア聖堂

●クリスマス会

12月17日(土) 16時00分 聖イグナチオ教会聖イグナチオ教会岐部ホール4階404、17:30 岐部ホール4階404
要申し込み。
クリスマスのミサ
12月23日(金) 14時～ 上智大学内クルトウルハイム聖堂(80人限定)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座 2011年～2012年
日時 毎週金曜日
18時45分～20時30分

- 12/02 恵みとゆるしー 神の憐れみを受ける
12/09 愛の心ー キリスト教の本質
12/16 隣人愛ー 他人の内にイエスに出会う
12/17 クリスマス・パーティ(16時30分マリア中聖堂[予定]、18時岐部ホール4階)
12/23 クリスマスのミサ(14時、上智大学内クルトウルハイム2階、80人限定)
- 01/06 希望を持つ勇氣ー 未来に向かって歩む
01/13 霊の動きー 福音による生き方
01/20 聖書と教会ー 信仰の基盤となる言葉
01/27 秘跡と教会生活ー 毎日を養う信仰
02/03 神の言葉ー 神との日常的な対話と黙想の仕方
02/04-05 黙想会(東村山)
02/10 結婚と独身ー 愛の道
02/17 信徒・司祭・修道者ー 誰もが召されている
02/24 仕事という人間の課題ー 社会と教会に寄与して働く
03/02 人間の苦悩ー 悪とは何のためか
03/09 死ー その受け入れと克服
03/16 人生の完成ー 神の内に生きる



リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座 2011年～2012年
日時 第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

日常生活

- 12/06 仕事と余暇ー 能力の活性化と人生の実り
12/17 クリスマスのミサとパーティ
(16時30分マリア聖堂[予定]、18時岐部ホール4階、要申し込み)
12/20 困難と苦しみー 謙遜な自己奉獻と神への信頼
12/23 ミサ(14時、上智大学内クルトウルハイム2階)
01/17 教会生活とミサー キリストの体の神秘
01/31 秘跡の恵みー たえざる回心とキリストのいのちの深まり

信仰の実現

- 01/17 教会生活とミサー キリストの体の神秘
01/31 秘跡の恵みー たえざる回心とキリストのいのちの深まり
02/04-05 黙想会(東村山)
02/07 祈りの本質と靈的読書ー 神との心の交流
02/21 日常に活かされる靈性ー 活動における観想
03/06 「聖徒の交わり」ー 信仰の内に支え合う

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウス・リーゼンフーバー神父
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通)
-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

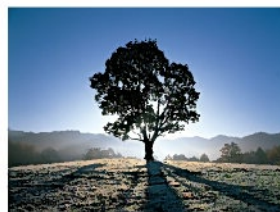
※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

特別・祈りの集い

「わたしは神をみたい」への招き

2011年12月29日(木) 2時～5時半頃まで



年末の忙しい日々だからこそ静かなひとときを持ち
一年を振り返り新しい年の希望を新たにしませんか

—プログラム—

- ◆ 講話 『わたしは神をみたい』の著者
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父のメッセージより
- ◆ 沈黙の祈り
- ◆ ミサ 一年を通じていただいた恵みへの感謝と新しい年への祈願を込めて
場所：ノートルダム・ド・ヴィ 参加費：200円

お申込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

ホームページ <http://www.ndv-jp.org/>

2011年12月3日の祈りの集いもあります。

尚、通常の祈りの集いは 2012年1月28日(土)を
予定しています。皆さまのご参加をお待ちしております。

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

12月 3日(土)
2012年 1月 28日(土)

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)・3594・2247
Fax(03)・3594・2254
E-mail notredamedevie.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>

講話 伊従信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

余震などの影響で、急遽中止になる事も考えられます。参加をご希望の方は、当日の午前～2時迄にお電話かFAXでこちらまでご連絡頂けますと幸いです。

カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

マリアの御心会

「来て、見なさい」

「イエスとの関わり」

—主よ、私の道はどこに—
祈りと分かち合い

テーマ：イエスの癒し 9/4(日)
：イエスの許し 10/9(日)
：私の委ね 11/13(日)
：私の選び 2012年1/29(日)

時間：14:00～17:00 *ミサはありません。

対象：自分の道を探している

35歳までの独身女性

場所：マリアの御心会 (JR信濃町下車3分)

会費：各回500円

担当：マリアの御心会会員

申込み：電話 03-3351-0297 締切り 2日前

働いている人のための
祈りの集い
みことばの分ち合い

時間 19:00~20:30 (第2水曜日)

2011年12月14日

2012年1月11日、2月8日、3月14日



軽食あり、自由献金

主催：マリアの御心会

JR「信濃町」下車徒歩3分

お問い合わせ

Tel 03-3351-0297

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

神を信じて生きてみる

神の道を探す
神よ、私は正しく生きていきたいのです

2011年 召命黙想会

日時 **12月10日(土) 15:00~**
11日(日) 15:30まで

場所：ノートルダム唐崎修道院
(JR京都駅から30分)

指導：山内 十束神父 (御受難会)

対象：独身女性信徒

費用：2,000円

締切：12月4日(日)

申込み・問合せ

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

Email karainorind92@mbe.nifty.com

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel: 077-579-7580
Fax: 077-579-3804
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ①11年12月27日(火)～12年1月4日(水)
- ②12年3月14日(水)～3月22日(木)
- ③8月15日(水)～8月23日(木)
- ④10月27日(土)～11月4日(日)
- ⑤12月27日(木)～13年1月4日(金)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ①2月3日(金)～2月5日(日)
- ②4月27日(金)～4月29日(日)
- ③5月18日(金)～5月20日(日)
- ④6月15日(金)～6月17日(日)
- ⑤7月13日(金)～7月15日(日)
- ⑥9月21日(金)～9月23日(日)
- ⑦11月23日(金)～11月25日(日)

C. 講話 黙想(奉献生活者のため)

5月26日(土)～6月3日(日) 松田 浩一 師(カルメル会)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

祈り：お話と実践

沈黙のうちに神を求めて

—観想的祈りへの道—

(第三回目)



くのり

九里彰神父

(カルメル会日本管区長)

日時：12月13日(火)

午後2時～4時

場所：イグナチオ教会

アルペホール3F301号

*参加費無料(献金歓迎)

*問い合わせ先：0424-73-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



聖ペトロの涙
El Greco



聖パウロの開眼
Pietro da Cortona

年間購読(郵送)のご案内



来年の1月から12月までの『霊性センターニュース』
一年間の購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。
年間購読(郵送)の献金は、2500円程度をお願い致します。
これには11回分の送料(8月休刊)が含まれます。

申込受付期限：12月20日まで

来年1月以降のお申し込みは、
翌月から12月までのお申し込みとなります。
(例：1月申込の場合は、2月号～12月号)
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

『霊性センターニュース』 郵送ご希望の方

左記の年間購読(郵送)の御案内を御覧ください！

ご希望の月数分×250円程度(郵送代込)を献金として送ってください。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください *

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

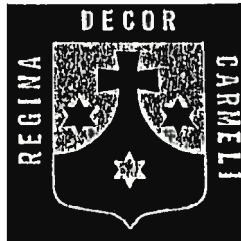
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

TPP 交渉参加の問題で野田政権も、はや難関にさしかかっている。米国と中国の覇権争いのはざま、国内産業の保護と、対応が非常に難しくなっている。かじ取り一つでは、またまた退陣ということになりかねない。いやはや大変な政治情勢である。国のトップが安定しないなら、諸外国も長期的な外交や通商を展開することはできないだろう。信用失墜にとどまらず、多くの国々から嘲笑される破目に陥らなければ良いのだが……

イタリアはしたたかに長期政権を維持していたベルルスコーニ首相が退陣し、経済通のモンティ首相が就任し、組閣した。この内閣には、何と政治家が一人も入っていない。清新なイメージがあるが、今後、政治家たちが協力するのかどうか見ものである。ベルルスコーニ前首相は、すでに妨害するような発言をしている。こちらでもまた大変である。犬と散歩にでも行きたくなる。(P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「1月号」製本日 12月27日(火) 上野毛教会信徒会館ホール 1階
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171